

| 科目名(副題) | | 開講年次 | 単位 | 担当者名 |
|---|------|---------------|--|-------|
| 障がい者支援論 | | | 4 | 山本登志哉 |
| 授業概要 | | | | |
| 障がいとはなんですか?障がいを支援するとはどういうことでしょうか。この授業では、主として発達障がいや精神障がいを対象に、「障がいという特性をめぐって共に生きる形」と、その中での支援の意味と一緒に考えていきます。 | | | | |
| 授業目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・障がいについて、「その人の中にあるもの」という狭い見方ではなく、時代と共に、社会と共に変化していくものとして柔軟に考えていく視点を身に着ける。 ・自分自身が抱える困難をそのような柔軟な視点から語り合い、捉え直してみる。 ・支援を双方向的な助け合いという視点から「共に生きる形」の一つとして考えてみる。 | | | | |
| 授業方法 | | | | |
| 授業における山本からの情報の提供はその後の講義参加者の議論の素材として行い、みんなでそれをめぐって議論することに重点を置きます。 | | | | |
| 成績評価方法・基準 | | | | |
| 出席70%、レポート30% | | | | |
| 教科書・教材・参考文献等 | | | | |
| パワーポイント提示。参考図書「ディスコミュニケーションの心理学:ズレを生きる私たち」(山本・高木編 東大出版会)「文化とは何か、どこにあるのか:対立と共生をめぐる心理学」(山本。新曜社) | | | | |
| 質問への対応 | | | | |
| 歓迎します。 | | | | |
| 授業経過(授業日程に若干の変更) | | | | |
| 項目 | | | 内容 | |
| 1 | 4・13 | 障がいってなんだろう① | 講義の参加者で、それぞれの障がいについての理解を交流してみます。私たちは何を障がいと感じているのかをその中から探ってみます。 | |
| 2 | 4・20 | 外から見た障がい1 | 障がいを「客観的」に理解する方法について、その性質を考えてみます。 | |
| 3 | 4・27 | 外から見た障がい2 | 講義の参加者が、外から見た障がいについて、自分自身が当事者としてどう感じるか、みんなで話し合ってみます。 | |
| 4 | 5・18 | 内から見た障がい1 | 当事者の内側からの障がい理解に迫ろうとする努力の一つとして、「自閉症の現象学」の考え方を見てみます。 | |
| 5 | 5・25 | 内から見た障がい2 | 「自閉症の現象学」の考え方で、どの程度当事者の気持ちが理解できるのかを、みんなで議論してみます。 | |
| 6 | 6・15 | 内側から語り合う障がい1 | 当事者の内側からの障がい理解へのもうひとつの道筋である「当事者研究」について、その考え方などを見てみます。 | |
| 7 | 6・22 | 内側から語り合う障がい2 | 「当事者研究」の考え方は、講義参加者の皆さんにとってどんな意味があるのかを話し合ってみます。 | |
| 8 | 6・29 | 障がいってなんだろう② | 外から見た障がい、「自閉症の現象学」「当事者研究」といったことなる三つの見方を踏まえて、改めて障がいとは何かを話し合ってみます。 | |
| 9 | 7・6 | 内と外から語り合う障がい1 | 発達障がい当事者と定型当事者が発達障がいを語り合う逆SSTという新しい試みについて、その考え方を見てみます。 | |
| 10 | 7・13 | 内と外から語り合う障がい2 | 講義参加者が出題者となって実際に逆SSTをやってみます。(1回目) | |
| 11 | 7・20 | 内と外から語り合う障がい3 | 講義参加者が出題者となって実際に逆SSTをやってみます。(2回目) | |
| 12 | 7・27 | 障がいってなんだろう③ | 障がいを進化・歴史・文化という視点から考えてみます。 | |
| 13 | 8・3 | 支援とはなんだろう① | 講義参加者の皆さんそれぞれにとって本当の支援とは何か、ということについて考えていることを語り合い、一緒に考えてみます。 | |
| 14 | 8・10 | 支援とは何だろう② | 発達障がい児支援の現場で問題になる「困難」とは何か、そこで必要とされている支援とは何かを考えてみます。 | |

| | | | |
|---|------|-----------|---|
| 15 | 8・17 | 障がいと支援と共生 | 全体を振り返り、共生という考え方から障がいの問題、そして障がい者支援の問題をどう考えていけるのかを議論してみます。 |
| 履修者へのコメント | | | |
| 講義を通して、「自分自身を対話の中で見つめ直す」きっかけが得られること、それを通して周囲の人たちとの関係がより柔軟に変化していくことがあれば、この講義は成功です。 | | | |